



高知県におけるソデグロヅルの初記録

佐藤重穂¹・山崎浩司²・橋本裕子³・西村公志⁴

1. 森林総合研究所四国支所. 〒 780-8077 高知市朝倉西町 2-915

2. 四国自然史科学研究センター. 〒 785-0023 須崎市下分乙 470-1 新荘公民館内

3. 〒 780-0025 高知市愛宕山 11-1

4. 日本野鳥の会高知支部. 〒 780-0966 高知市福井扇町 1171-1

ソデグロヅル *Grus leucogeranus* はツル目 Gruiformes ツル科 Gruidae に属する全長約 135cm の大型のツルの一種で、ロシア中北部のオビ川河口域で繁殖するものと北東部のコリマ川からレナ川付近で繁殖する二つの個体群があり、西部個体群である前者はおもにイランやインド北部で越冬し、東部個体群である後者は中国南部のポーヤン湖付近で越冬する (del Hoyo *et al.* 1996, 尾崎 1996, 日本鳥学会 2012). 本種は世界的に個体数が少なく、特に西部個体群は絶滅寸前とされており、三千羽余りの東部個体群と合わせて総生息個体数は 3000–4000 羽と推定され、IUCN のレッドリストで Critically Endangered と評価されている (BirdLife International 2000, Brazil 2009). 日本ではこれまでに迷鳥として北海道、秋田県、岩手県、宮城県、千葉県、石川県、島根県、山口県、長崎県、鹿児島県、沖縄県に渡来した記録がある (日本鳥学会 2012).

筆者らは 2013 年 12 月から 2014 年 1 月に高知県土佐市において本種 3 羽が滞在した状況を観察したので、報告する。

観察した主要な場所は高知県土佐市蓮池であり、およその緯度経度は北緯 33 度 29 分 15 秒、東経 133 度 25 分 20 秒、3 次メッシュコードは 5033-1383 である。高知県中央部を流れる仁淀川の河口近くで合流する支流の波介川流域

に広がる東西に細長い平野部である。平野の南北にはそれぞれ、標高 300m 程度の山地がある。観察した場所の標高は約 10m であり、この周辺はおもに稲作の水田として利用されているが、その一部は冬期には野菜の畑作が行われていて、周囲には宅地が混在する。

2013 年 12 月 28 日に土佐市在住の谷脇祐輔氏から、大型のツル 3 羽が土佐市蓮池の農耕地にいたという情報が日本野鳥の会高知支部に寄せられた。同日、筆者の一人である橋本が現地を訪れて、写真を撮影して、ソデグロヅルと同定した。谷脇氏からの聞き取りによると、初めて見たのは 12 月 25 日ということであった。

今回観察された 3 羽は体長 130–140cm 程度であり、首や体全体が白色で、顔の部分が赤く、翼の初列風切や雨覆が黒かった。これらの特徴をもつツル類はソデグロヅルの他にはいないことから、ソデグロヅルと容易に同定できた。ソデグロヅルの 2 年目の個体は頭部、頸部、体部に褐色が残り、3 年目の個体はほぼ成鳥に似るが、頭部と後頸部に茶色が少し残る (Johnsgard 1983). 今回観察した個体は 3 羽とも後頸部が薄茶色であったので、3 年目の個体であるものと考えられた。

その後、2014 年 1 月 26 日までソデグロヅル 3 羽は現地に滞在して、その間、筆者らを含む多くの人が観察し、写真を撮影した (図 1).

2014 年 12 月 8 日 受理

キーワード：四国初記録, *Grus leucogeranus*, ソデグロヅル, 冬期の滞在



図1. 高知県土佐市の農地で採餌するソデグロヅル (2013年12月30日. 佐藤重穂撮影).

Fig. 1. Siberian Cranes feeding in the farmland of Tosa City, Kochi Prefecture (Dec. 30 2013. Photo by S. Sato).

地元新聞にも写真入りの記事が掲載された(高知新聞2013)。同年1月26日に確認された後、当地では確認されなくなった。

筆者らによる観察には、7-10倍の双眼鏡と20-40倍の望遠鏡を使用した。筆者らは対象個体から約30m以上離れて観察するように心がけたが、訪れた観察者や写真撮影者はソデグロヅルまでの距離が約10mに近づくこともあったものの、ソデグロヅルは逃げず、人間に対する警戒心は強くないようであった。当地で観察されている間、ほとんどの場合、ソデグロヅルは3羽で一緒に行動していた。日中はほぼ同じ場所で一日中、農地の畔を掘り返し、おもに草の根を食べ、時々昆虫やミミズなども食べているのが観察されたが、餌生物の同定はできなかった。

ソデグロヅル3羽は滞在中、夜間は仁淀川の本流をねぐらとしていた。ねぐらとしていた場所は、流れの穏やかな浅瀬で水深10-20cmであった。日中に滞在している土佐市蓮池と仁淀川のねぐらとの距離は約1.5km離れていた。ほぼ毎日、日の出直前にねぐらから飛び立ち、

日没前後にねぐら入りしていた。朝のねぐら発ち前と夕方のねぐら入り後には、ねぐら付近で短時間、小魚を追いかけたり、貝類のようなものをついばんだりする姿が見られた。

2014年1月にはソデグロヅル3羽のうちの2羽が求愛行動とみられるディスプレイをするのが観察された(図2)。ディスプレイは2羽が翼を少し広げながら交互に頭を上下に動かす行動を約10秒間行った。これらの行動は、ソデグロヅルの雌雄のユニゾンコールについてのSauey(1975)の記述とよく似ていた。これらの一連の行動から2羽は雌雄であるものと考えられた。

これまで、四国地域における鳥類相を記述した和田(1973)、石原(1982)、石川ほか(1995)などのいずれにおいても、ソデグロヅルは報告されておらず、日本鳥学会(2012)でも、四国からの記録はない。本報告は本種の四国地域における初めての観察記録であり、かつ越冬期の滞在記録であると考えられる。また、これまでの日本国内での本種の記録は、2008年冬季に鹿児島県出水市で成鳥1羽と幼鳥1羽が確認



図 2. ユニゾンコールをするソデグロヅル (2014年1月20日、山崎浩司撮影)。

Fig. 2. Siberian Cranes calling in unison in Tosa City, Kochi Prefecture (Jan. 20 2014. Photo by K. Yamasaki).

された事例 (日本野鳥の会鹿児島県支部 2009) 以外は、すべて単独個体であった (真木・大西 2000) が、今回は3年目の亜成鳥3羽の小群であったことが特筆される。

なお、2014年2月2日に徳島県鳴門市のレンコン畑でソデグロヅル3羽が確認され (徳島新聞 2014, 山崎 2014), 3羽のうち2羽は3月中旬まで、残りの1羽は同年4月19日まで鳴門市で観察された (三宅武 私信)。鳴門市で観察された3羽は後頸部に薄茶色があり、3羽同時に飛来したことから、土佐市蓮池で確認されたものと同一群と考えられる。

日本野鳥の会徳島県支部の三宅武支部長には徳島県鳴門市におけるソデグロヅルの観察状況について教えていただいた。土佐市在住の谷脇祐輔氏はソデグロヅルの飛来について情報を提供していただいた。また、匿名の査読者には本稿の改善に有益な助言をいただいた。あわせて深く感謝申し上げる。

引用文献

BirdLife International. 2000. The threatened birds

of the world. Lynx Edicions and BirdLife International, Barcelona and Cambridge, UK.

Brazil, M. 2009. Birds of East Asia. Princeton University Press, Princeton.

del Hoyo, J., Elliot, A. & Sargatal, J. eds. 1996. Handbook of the Birds of the World Vol.3. Hoatzin to Auks. Lynx Edicions, Barcelona.

石原保. 1982. 四国の野鳥誌. 築地書館, 東京.

石川和男・大野正・澤田佳長・柴折史昭・曾良寛武・森川國康・山本正幸. 1995. 四国の野鳥. 高知新聞社, 高知.

Johnsgard, P. A. 1983. Cranes of the World: Siberian Crane (*Buggeranus leucogeranus*). from Cranes of the World, P. Johnsgard. Paper 27. <<http://digitalcommons.unl.edu/bioscicranes/27>> (参照:2014年11月25日)

高知新聞. 2013. ソデグロヅル3羽が土佐路にふわり 高知県内確認は初. 高知新聞2013年12月30日付.

真木広造・大西敏一. 2000. 日本の野鳥590. 平凡社, 東京.

日本鳥学会. 2012. 日本産鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 三田.

日本野鳥の会鹿児島県支部. 2009. 鳥情報(11月2日

- ～2月1日). りりかけず 121: 14-16.
- 尾崎清明. 1996. ソデグロヅル. 樋口博芳・森岡弘之・山岸哲(編). 日本動物大百科第3巻鳥類I. 平凡社, 東京.
- Sauey, R. T. 1976. The behavior of Siberian cranes wintering in India. J. Lewis. (ed.) Proceedings of the international crane workshop. Oklahoma State University.
- 徳島新聞. 2014. 鳴門に飛来, ソデグロヅル レンコン畑お気に入り. 徳島新聞2014年2月21日付.
- 和田豊洲. 1973. 四国の野鳥. 高知営林局, 高知.
- 山崎浩司. 2014. 生物の風景. 四国自然史科学研究センターニュースレター(44): 2.

**The first record of Siberian Cranes *Grus leucogeranus*
in Kochi Prefecture, western Japan**

Shigeho Sato¹, Koji Yamasaki², Yuko Hashimoto³ & Koji Nishimura⁴

1. Shikoku Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute. 2-915 Asakura-nishimachi, Kochi 780-8077, Japan
2. Shikoku Institute of Natural History. c/o Shinjo-kominkan, 470-1 Shimobun-otsu, Susaki, Kochi 785-0023, Japan
3. 11-1 Atagoyama, Kochi 780-0025, Japan
4. Kochi Branch, Wild Bird Society of Japan. 1171-1 Fukui-ogimachi, Kochi 780-0966, Japan

We observed three subadult Siberian Cranes *Grus leucogeranus* (Gruiformes: Gruidae) in Tosa City, Kochi Prefecture, western Japan from December 2013 to January 2014. This is the first record of this species in Shikoku Island.

Key words: first record from Shikoku Is., Grus leucogeranus, Siberian Crane, stay of wintering season